



Johann Sebastian Bach: Sei Solo á Violino senza Basso accompagnato

aud 23.434

EAN: 4022143234346



4022143234346

Record Geijutsu (01.12.2018)

Jahr der Rezension siehe PDF!



海外盤REVIEW ●室内楽曲／器楽曲

2018.12 Record Geijutsu

■寺西 肇 (音楽ジャーナリスト)

ドイツの名手シッケダンツによるバッハの無伴奏ヴァイオリン作品の全曲録音も、モダン楽器の特性を存分に生かした快演だ。1969年ダラムシュタット出身で、ベルリン芸術大学などに学び、ソリストのほか、ピアノ三重奏団「ヨハネス・クライスラー・トリオ」の一員としても活躍。現在は母校やハンブルク音大で、後進の指導に力を注ぐ。録音では、ナチス台頭でドイツを追われたエルンスト・クルシエネクの作品集「2011年、Audite」が話題となった。そんな名手が対峙する、バッハの無伴奏。やはり、拍節感覚など様式の上での基本的なマナーをふまえないがらも、モダン楽器の機動性を前面に押し出し、しなやかでじつに洗練されている。際立つのは、透明な音色の美しさと、横方向へのフレーズの流れの良さ。全体的に速めのテンポ取りを選択する一方、ルバートは

Bach, J.S.



特

J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ(全曲)
クリストフ・シッケダンツ (vn)
〈録音:2014年3月、15年5月、16年7月〉
[Audite D23.434(2枚組)]

意識的に、可能なかぎり排除しているよう。一方で、特にフーガ楽章においては、重音における低音の軽やかさ、中音域のフレーズの繋がり、良さが、圧倒的な推進力をもたらす。特筆すべきは、右手によるボウイング表現の饒舌さ。これあつてこそ、パルティータ第2番の第1曲など緩徐楽章での、まるで弾むような裏拍の処理などが可能に。あるいは、パルティータ第1番のクォーラントでのマルカートとスラーを交替させてのコントラスト付けやリビート前後での陰影の表現。しかも、続くドゥーブルでは、これらをきつちりとトレース。そして、ハイライトである「シャコンヌ」では、こうした多彩な美学が、見事に集約されてゆく。

また、基本的にノン・ヴィブラートで臨んでいるが、長いフレーズ半ばで、わずかながらも効果的に指を震わせ、楽器と演奏空間の響きを味方につけてしまう。さらに、自筆譜を入念に精査しているのだから、じつは作曲家が意図的に区別して書いたと考えられる、同じようなフレーズにおけるスラーの違いや、詰めて書かれた音符とそうでない音符など、きつちりと弾き分けてゆく。かといつて、過剰な「原典主義」ではなく、スラーの追加などは、ごく自然な形で、しかし柔軟に行なっている。